

## 小さな行動が社会を照らす

旭中学校3年  
木村 彩乃

私は、「社会を明るくする運動」について調べているうちに、地域の人々とのつながりが大切であることに気づきました。今の社会では、高齢者の孤立や子どもへの虐待、いじめなどの問題が増えています。それらの問題を少しでもなくすためには、地域で助け合い、声をかけ合える関係が必要だと思いました。私自身も、地域交流を通じて人と人とのつながりの大切さを実感したことがあります。

たとえば、私の町内では年に数回、夏祭りや清掃活動が行われます。そこでは、普通あいさつをするだけの近所の人たちと話すことができたり、お年寄りや小さい子どもたちとふれ合ったりすることができます。私は昨年、地域の清掃活動に参加しました。朝早くから公園のゴミ拾いや草取りを行い、大人も子どもも協力して作業を進めました。最初は「大変そうだな」と思っていたのですが、作業中にいろんな人が声をかけてくれたり、休憩中にジュースをもらったりして、自然と笑顔になりました。自分たちの手で公園がきれいになっていくのを見たとき、うれしさと達成感でいっぱいになりました。このような経験から、地域の人たちと関わることは、自分の心も明るくし、人の役に立てる喜びを感じられるものだと思いました。高齢者の方々にとっても、地域のイベントや交流の場は、元気をもらえる大切な時間になっているそうです。また、子どもたちが地域の大人と関わることで、見守られている安心感や、思いやりの心を育むことにもつながると思います。しかし、最近では隣に住んでいる人の名前も知らないという家庭が増えていると聞きます。防災や防犯の面でも、地域のつながりがうすれているのはとても心配なことです。そんな中、「社会を明るくする運動」は地域の中でお互いに助け合い、犯罪やトラブルのない安心できるまちをつくるために行われている大切な活動で

す。一人ひとりが少しずつでも関わることで、やさしさや思いやりが広がり、地域全体が明るくなっていくのだと思います。

私はこれからも、地域の行事には積極的に参加し、困っている人がいたら声をかけられるような人になりたいです。そして、自分にできることを見つけて行動していきたいと思います。社会を明るくするには、あいさつをしたり、話を聞いたりするような日常の中のやさしさが大切なのだと学びました。人と人とがつながることで、心も温かくなり、笑顔が広がります。私は、そんな地域や社会をつくっていけるように、これからも自分から行動していきたいです。